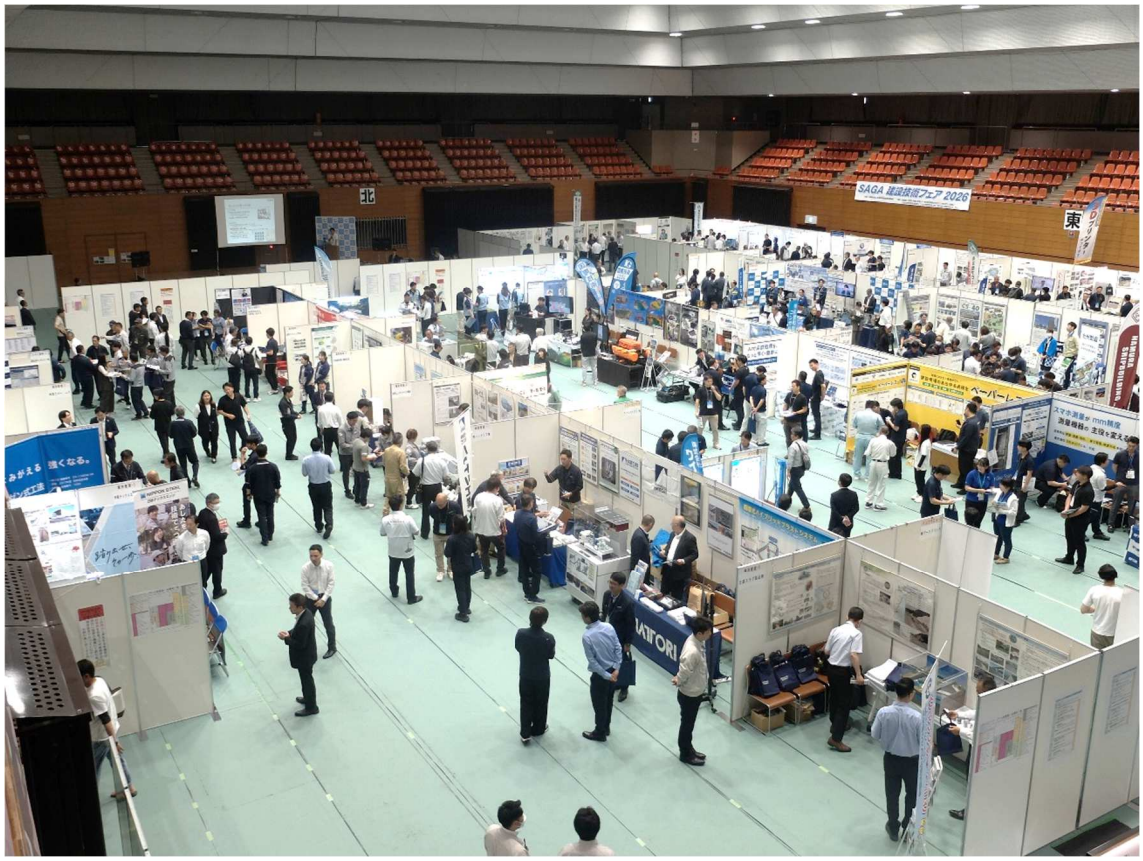
ＳＡＧＡ建設技術フェア２０２６
開催報告書



本報告書は、令和８年６月１０日（水）～１１日（木）にかけてSAGAプラザ（総合体育館）で開催した「ＳＡＧＡ建設技術フェア２０２６」の実施内容およびアンケート調査結果等についてとりまとめたものです。

令和８年１０月

公益財団法人佐賀県建設技術支援機構

目次

1. フェアの概要 1

2. 出展者 2
2.1 出展者一覧表（64 団体） 2
2.2 会場配置 3
2.3 会場の様子 4

3. 来場者 5

4. 実施内容 6
4.1 ポスター及びチラシ 6
4.2 開催プログラム 7
4.3 開会式 9
4.4 特別講演 10
4.5 技術者発表（1） 11
4.6 技術者発表（2） 11
4.7 災害派遣報告 12
4.8 展示技術プレゼンテーション 12
4.9 パネル展示 13
4.10 閉会式 14
4.11 CPDS 等の受講証明 14

5. アンケート結果 15
5.1 来場者アンケート 15
5.2 出展者アンケート 23

6. 過去 10 回の出展団体数と来場者数の推移 27

7. まとめ 28

1. フェアの概要

主　　催	公益財団法人佐賀県建設技術支援機構
共　　催	佐賀県／佐賀大学理工学部／一般社団法人佐賀県県土づくりコンサルタンツ協会／一般社団法人佐賀県建設業協会／一般社団法人佐賀県建築士会／特定非営利活動法人技術交流フォーラム
後　　援	国土交通省九州地方整備局／佐賀県教育委員会／佐賀市／一般社団法人佐賀県地質調査業協会／佐賀県土木施工管理技士会／一般社団法人佐賀県建築士事務所協会／低平地研究会／公益社団法人土木学会西部支部／公益社団法人地盤工学会九州支部／公益社団法人日本技術士会九州本部／一般社団法人建設コンサルタンツ協会九州支部／NHK 佐賀放送局／サガテレビ／佐賀新聞社／建設新聞社／ぶんぶんテレビ／FM 佐賀／NBC ラジオ佐賀
日　　時	【1 日目】令和 8 年 6 月 10 日（水）10:00～16:00 【2 日目】令和 8 年 6 月 11 日（木）10:00～16:00
場　　所	SAGA プラザ（総合体育館）（佐賀市日の出一丁目 21 番 15 号）
目　　的	建設分野（土木・建築）の技術・工法・製品などについて産学官における技術情報の交流の場を提供し建設分野の技術開発や新技術導入の促進を図るとともに、高校生・大学生を含む一般の方々に建設業界の魅力や社会資本整備の必要性について理解を深めてもらうことにより、建設産業の発展及びキャリアデザイン教育の推進に寄与することを目的とする。
テ　ー　マ	建設技術が創る安全・安心なまちづくり
内　　容	特別講演 技術者発表 災害派遣報告 学生研究発表 技術展示ブース 展示技術プレゼンテーション パネル展示
出展テーマ	環境／防災／コスト縮減／維持管理／インフラ DX／佐賀の技術
来 場 者	総数　2,481 名（2 日間延べ） 【内訳】　官公庁・団体職員　226 名 建設業　1111 名 コンサルタント　390 名 製造業・メーカー　271 名 一般・その他　100 名 学生・生徒　383 名

2. 出展者

2.1 出展者一覧表（64 団体）

64 の企業・団体からブースを出展していただきました。県内の企業・団体からの出展は 28 ブースでした。

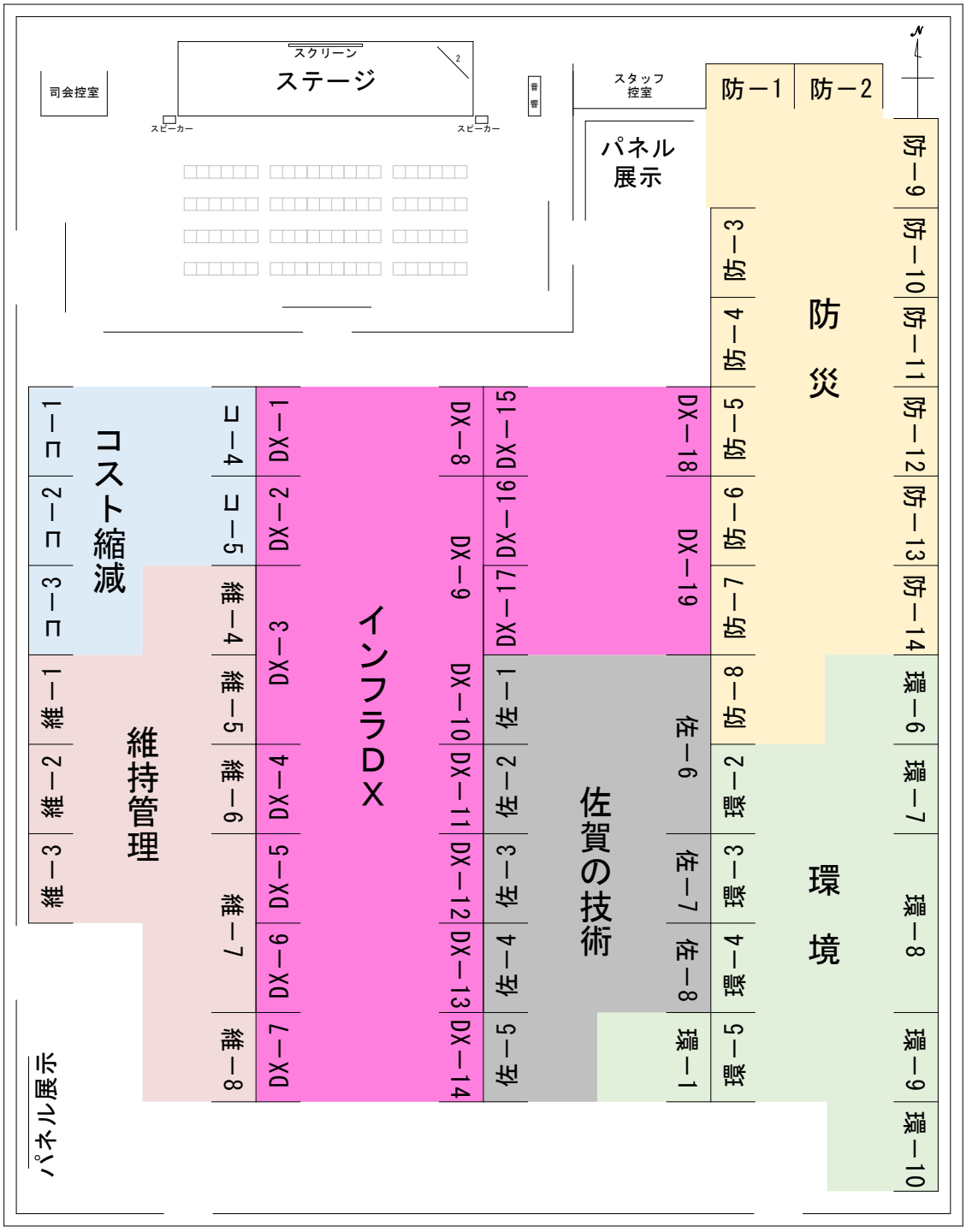
【出展者一覧（64 団体）】

分類	番号	企業・団体名	県内
環　境	環−１	高原木材株式会社	○
	環−２	松栄技建株式会社	○
	環−３	日本建設技術株式会社	○
	環−４	一般社団法人有明未利用熱利用促進研究会	○
	環−５	トランスコスモス株式会社	−
	環−６	笠原建設株式会社	○
	環−７	株式会社九州パイリング	−
	環−８	旭化成アドバンス株式会社	−
	環−９	大成ロテック株式会社　九州支社	−
	環−10	日本乾溜工業株式会社　佐賀支店	○
防　災	防−１	国土防災技術株式会社　佐賀支店／サンスイ・ナビコ株式会社　九州営業所	○
	防−２	松鶴建設株式会社	−
	防−３	株式会社トータル環境	−
	防−４	株式会社仙台銘板	○
	防−５	株式会社協和製作所	○
	防−６	日特建設株式会社　九州支店	−
	防−７	株式会社テノックス九州	−
	防−８	不二コンクリート工業株式会社	○
	防−９	青木あすなろ建設株式会社	−
	防−10	東亜グラウト工業株式会社　九州支店	−
	防−11	太洋基礎工業株式会社　九州支店	−
	防−12	西日本技術開発株式会社　佐賀営業所	○
	防−13	筑豊金網工業株式会社	−
	防−14	株式会社ネオコンクリート	−
コスト縮減	コ−１	日建リース工業株式会社	−
	コ−２	協同組合Masters　ジオテツ工法研究会	−
	コ−３	基礎地盤コンサルタンツ株式会社	○
	コ−４	株式会社セリタ建設	○
	コ−５	株式会社建築資料研究社　日建学院　佐賀支店	○
維持管理	維−１	株式会社富士ピー・エス	−
	維−２	一般社団法人日本建設保全協会	−
	維−３	日鉄テックスエンジ株式会社	−
	維−４	佐賀県のリフレッシュ工法協会	○
	維−５	大同塗料株式会社　福岡支店	−
	維−６	有明コンクリート工業株式会社	−
	維−７	株式会社ハットリ工業	○
	維−８	日鉄スラグ製品株式会社	−
佐賀の技術	佐−１	一般社団法人佐賀県県土づくりコンサルタンツ協会	○
	佐−２	佐賀県　県土整備部　建設・技術課	○
	佐−３	日之出水道機器株式会社	−
	佐−４	名村造船所（鋼橋）	○
	佐−５	株式会社　多久製作所　営業本部　西日本支店　九州営業課	○
	佐−６	九州製鋼株式会社	○
	佐−７	フローティング基礎研究会	○
	佐−８	佐賀大学理工学部／理工学研究科　都市基盤工学コース／建築環境デザインコース	○
インフラDX	DX−１	シマウチエンジニアリング株式会社	○
	DX−２	レフィクシア株式会社	−
	DX−３	株式会社SANOU　TEC	−
	DX−４	株式会社MetaMoJi	−
	DX−５	アイサンテクノロジー株式会社	−
	DX−６	株式会社ワイビーエム	○
	DX−７	株式会社データグリッド	−
	DX−８	株式会社熊谷組　九州支店	−
	DX−９	国際技術コンサルタント株式会社	○
	DX−10	ビジオテックス株式会社　福岡営業所	−
	DX−11	ローカスブルー株式会社	−
	DX−12	SORABITO株式会社	−
	DX−13	株式会社オプティム	−
	DX−14	村本建設株式会社	−
	DX−15	福井コンピュータ株式会社　九州営業所	−
	DX−16	精密舎株式会社	○
	DX−17	株式会社建設システム	−
	DX−18	システムメトリックス株式会社	−
	DX−19	NTT西日本株式会社　佐賀支店	○

2.2　会場配置

1つの会場に『ブース出展エリア』と『ステージエリア』を設けることで、両エリアの行き来を簡単にできるようにしました。また、ブース出展エリアは出展テーマごとに配置することで、テーマに関する技術や工法の情報収集をしやすくしました。

【会場配置図】



2.3　会場の様子




【 全　景 】




【 受　付 】




【 出展ブース 】




【 講演・発表 】

3. 来場者

2 日間で総計 2,481 名の方にご来場いただきました。建設（土木・建築）の来場者が最も多く、次いで設計・調査・コンサルタントが多い結果となりました。

受付での混雑緩和のため、WEB による事前申込みをお願いしました。

【来場者集計表】

（単位：人）

来場者＼日時	6/10(水)	6/11(木)	小計
官公庁・団体職員	100	126	226
建設(土木・建築)	594	517	1111
設計・調査・コンサルタント	231	159	390
製造業・メーカー	134	137	271
一般・その他	59	41	100
学生(高校生・大学生)	193	190	383
合計	1311	1170	2481

4.　実施内容

4.1　ポスター及びチラシ

フェアの開催を広く周知するため、ポスターおよびチラシを作成し、県市町や関係団体等に配布しました。

【ポスター及びチラシ】



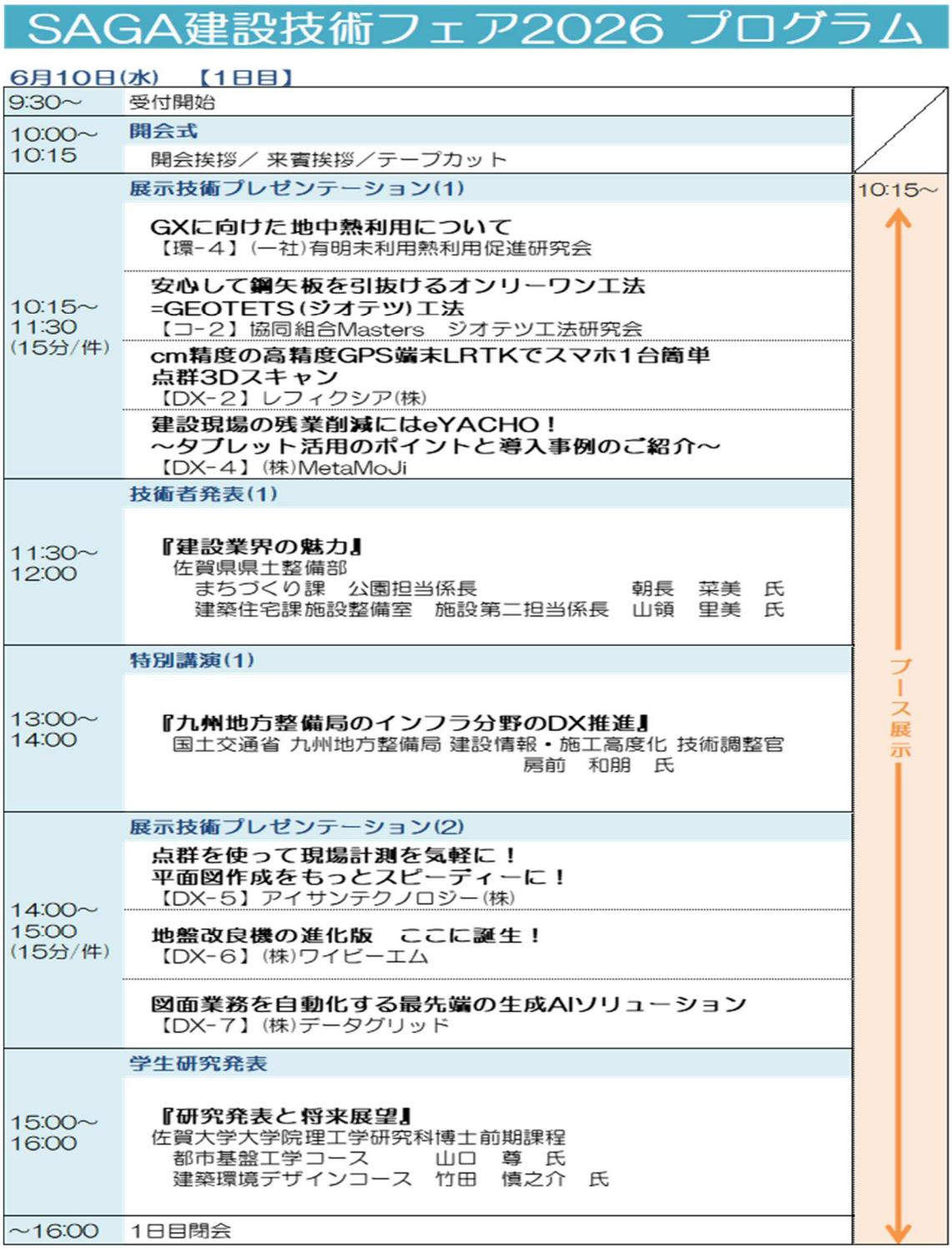
（ポスター／チラシ表）



（チラシ裏）

4.2　開催プログラム

1 日目は開会式、特別講演、技術者発表、学生研究発表、展示技術プレゼンテーション 7 件、2 日目は特別講演、災害派遣報告、技術者発表、展示技術プレゼンテーション 8 件、閉会式を行いました。



SAGA建設技術フェア2026 プログラム

6月11日(木)　【2日目】

9:30～	受付開始	
10:00～	2日目開会	10:00～
10:05～ 10:35	**技術者発表(2)** **『建設業界の魅力』** 佐賀県佐賀土木事務所　技師　佐々木　小次郎　氏 佐賀県東部土木事務所　主査　三原　峻太郎　氏	ブース展示
10:35～ 12:00 (15分/件)	**展示技術プレゼンテーション(3)** **高耐久保護シート『防災イエローシート』** 【防-3】(株)トータル環境 **人と環境に適した新工法　CPP工法** 【コ-4】(株)セリタ建設 **建設DX支援サービスについて** 【DX-9】国際技術コンサルタント(株) **水中調査・モニタリング機器/インフラ点検システムのご紹介** 【DX-10】ビジオテックス(株) 福岡営業所	
13:00～ 14:00	**特別講演(2)** **『大規模災害発生時における消防機関と建設業界の連携』** 佐賀広域消防局　佐賀消防署　消防２課長　吉武　明彦　氏	
14:00～ 15:25 (15分/件)	**展示技術プレゼンテーション(4)** **低水位時開放型フラップゲート** **(オートフラップゲート・Ltype)** 【防-5】(株)協和製作所 **すべて抜き取り可能なあと施工アンカーボルト** **「Rアンカー」** 【維-2】(一社)日本建設保全協会 **点群活用と仕様書確認を支えるAIソリューション** 【DX-11】ローカスブルー(株) **建設現場のあらゆる点検表をペーパーレスに** 【DX-12】SORABITO(株)	
15:25～ 15:55	**災害派遣報告** **『令和6年能登半島地震及び令和6年奥能登豪雨に係る** **被害概要及び派遣概要について』** 佐賀県佐賀土木事務所　主任主査　伊東　拓哉　氏	
15:55～ 16:00	**閉会式** 閉会挨拶	

4.3　開会式

ステージにて開会式を執り行いました。共催や後援の皆様方にご列席いただき、主催者挨拶、来賓挨拶、テープカットが行われました。

【主催者挨拶（支援機構 王丸理事長）】



【来賓挨拶（佐賀河川事務所長 小野 朋次 氏）】



【来賓・共催者によるテープカット】



（テープカット写真 左から）

一般社団法人　佐賀県建築士会	会　長	小島　啓　氏
一般社団法人　佐賀県建設業協会	副会長	岩本　真二　氏
佐賀県　県土整備部　建設・技術課	副部長	川﨑　文仁　氏
公益財団法人　佐賀県建設技術支援機構	理事長	王丸　義明
国土交通省　九州地方整備局　佐賀河川事務所	所　長	小野　朋次　氏
佐賀大学　理工学部　理工学科　都市工学部門	教　授	伊藤　幸広　氏
一般社団法人　佐賀県県土づくりコンサルタンツ協会	会長	詫間　政弘　氏
特定非営利活動法人　技術交流フォーラム	副理事長	宮副　一之　氏

4.4　特別講演

1 日目は、

国土交通省　九州地方整備局

建設情報・施工高度化技術調整官　　房前　和朋　氏

に「九州地方整備局のインフラ分野の DX 推進」と題してご講演いただきました。

2 日目は、

佐賀広域消防局　佐賀消防署　消防２課長　　吉武　明彦　氏

に「大規模災害発生時における消防機関と建設業界の連携」と題してご講演いただきました。

【国土交通省　九州地方整備局　　房前　和朋　氏による講演の様子】





【佐賀広域消防局　佐賀消防署　　吉武　明彦　氏による講演の様子】





4.5　技術者発表（1）

1 日目は、建設業界での女性の一層の活躍に寄与することを目的として、

佐賀県県土整備部　まちづくり課　　朝長　菜美　氏

佐賀県県土整備部　建築住宅課　　山領　里美　氏

に「建設業界の魅力」と題してご講演いただきました。

【講演の様子】





4.6　技術者発表（2）

2 日目は、建設業界での若手の一層の活躍に寄与することを目的として、

佐賀県佐賀土木事務所　　佐々木　小次郎　氏

佐賀県東部土木事務所　　三原　峻太郎　氏

に、「建設業界の魅力」と題してご講演いただきました。

【講演の様子】





4.7　災害派遣報告

能登半島地震及び奥能登豪雨の被災状況や災害支援の状況を広く知っていただくことを目的として、

佐賀県佐賀土木事務所　　伊東　拓哉　氏

に、「令和 6 年能登半島地震及び令和 6 年奥能登豪雨に係る被害概要及び派遣概要について」と題してご講演いただきました。

【講演の様子】





4.8　展示技術プレゼンテーション

15 のブース出展者による展示技術プレゼンテーションをステージにて行いました。1 出展者あたりの発表時間は 15 分で各技術や製品などについて発表をしていただきました。

【展示技術プレゼンテーション一覧表】

分類	企業・団体名	発表内容
環−4	一般社団法人有明未利用熱利用促進研究会	GXに向けた地中熱利用について
防−3	株式会社トータル環境	高耐久保護シート『防災イエローシート』
防−5	株式会社協和製作所	低水位時開放型フラップゲート（オートフラップゲート・Ltype）
コ−2	協同組合Masters　ジオテツ工法研究会	安心して鋼矢板を引抜けるオンリーワン工法＝GEOTETS（ジオテツ）工法
コ−4	株式会社セリタ建設	人と環境に適した新工法　CPP工法
維−2	一般社団法人日本建設保全協会	すべて抜き取り可能なあと施工アンカーボルト「Rアンカー」
DX−2	レフィクシア株式会社	cm精度の高精度GPS端末LRTKでスマホ1台簡単点群3Dスキャン
DX−4	株式会社MetaMoJi	建設現場の残業削減にはeYACHO！〜タブレット活用のポイントと導入事例のご紹介〜
DX−5	アイサンテクノロジー株式会社	点群を使って現場計測を気軽に！ 平面図作成をもっとスピーディーに！
DX−6	株式会社ワイビーエム	地盤改良機の進化版　ここに誕生！
DX−7	株式会社データグリッド	図面業務を自動化する最先端の生成AIソリューション
DX−9	国際技術コンサルタント株式会社	建設DX支援サービスについて
DX−10	ビジオテックス株式会社　福岡営業所	水中調査・モニタリング機器/インフラ点検システムのご紹介
DX−11	ローカスブルー株式会社	点群活用と仕様書確認を支えるAIソリューション
DX−12	SORABITO株式会社	建設現場のあらゆる点検表をペーパーレスに

【展示技術プレゼンテーションの様子】





4.9　パネル展示

会場では以下の団体からのご協力によりパネル展示を行いました。

・青春 BUILD プロジェクト（代表：デミー博士）

・佐賀県

【パネル展示の様子】









4.10　閉会式

当支援機構の王丸理事長の閉会挨拶で 2 日間の幕を閉じました。

【閉会挨拶】



4.11　CPDS 等の受講証明

当フェアは一般社団法人全国土木施工管理技士会連合会の運営する CPDS（継続学習制度）の学習プログラムとして認定されました。CPDS のユニット数は両日とも 2 ユニット/日でした。

CPDS へ登録を希望される来場者には CPDS カード等を機械で読取り主催者が一括で学習履歴申請代行を行いました。

CPDS 以外の他の学会・団体の CPD に登録を希望される来場者には受講証明書を発行しました。

5. アンケート結果

5.1 来場者アンケート

来場者を対象にアンケート調査を行いました。

(1) 1 日目

設問 1）職業

建設業が最も多く来場者の 6 割近くを占め、次いで設計・調査・コンサルタント、学生・生徒となっています。

設問 2）今回のフェアで印象に残ったプログラム

多くの方は、出展ブースが印象に残ったようです。

設問 3）フェアに関しての評価

良い、やや良いという回答は 88%となっています。

【良い】

・他業種の製品や関連業種の製品を幅広く見る事が出来る
・机上の知識のみだった部分をより理解できた
・建設関連の他にも日常でも利用可能な技術の事を知る事が出来る為
・展示品、各企業の分かり易い説明、今後の施工に役立つ
・区画割がきちんと整理されて対応が非常に良かった
・出展ブースが年々パワーアップしている企業があり、見ごたえがあった
・出展者の熱意があり、聞きごたえがあった
・興味のあるブースが多数あった
・建築の業界の中でも色々な分野の事業を知る事が出来た

【やや良い】

・初めての参加で建設業の事が色々進化していると感じた
・講演を聞いてブースを回ったので色々とわかりやすかった
・プレゼンテーションが分かり易く勉強になったから
・直接専門的な話がブースにて聞けるから
・疑問だったことが聞けて解決できたため

【普通】

・説明が分かり易かった
・各企業の事が知れて良い
・色々なブースがあって楽しかった
・新技術等学べて良い

設問 4）毎年の開催を希望するか【一般のみ】

希望するという回答は 90%となっています。

設問 5）来場目的【大学生・高校生のみ】

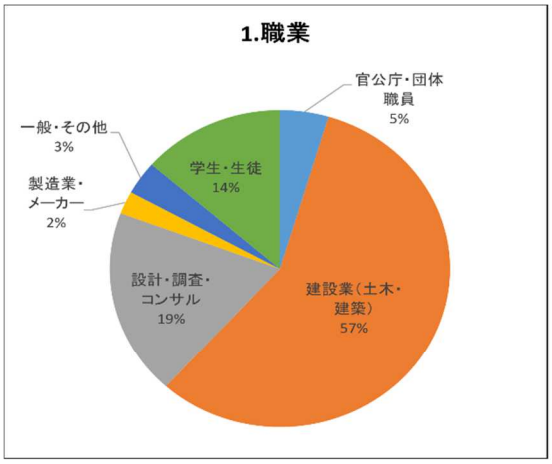
情報収集が最も多く 60%、次いで建設技術への興味が 36%となっています。

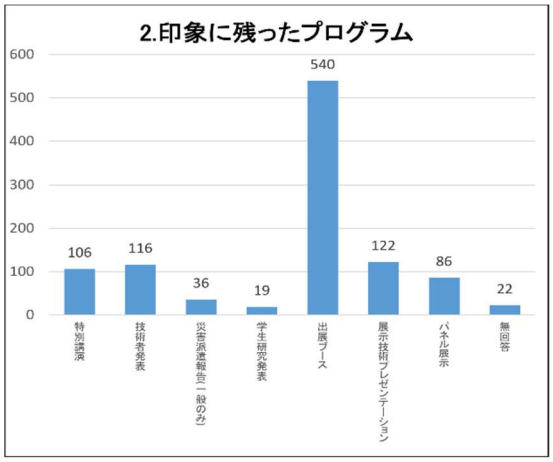
設問 5-1）来場目的は達成できたか【大学生・高校生のみ】

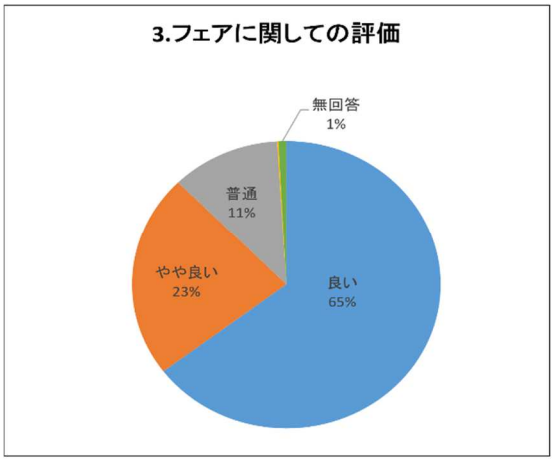
達成できたとやや達成できたを合計すると 97%となっています。

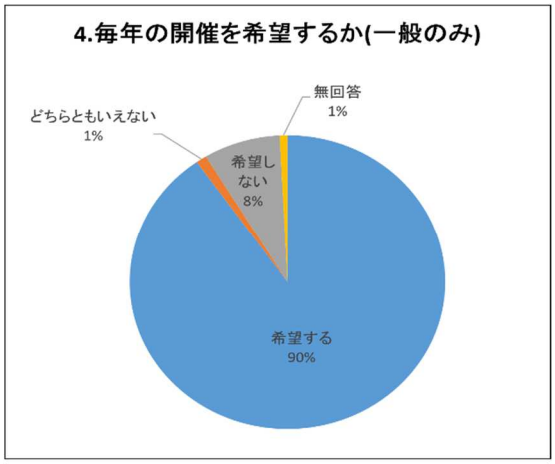
設問 6）将来の参考になったか【大学生・高校生のみ】

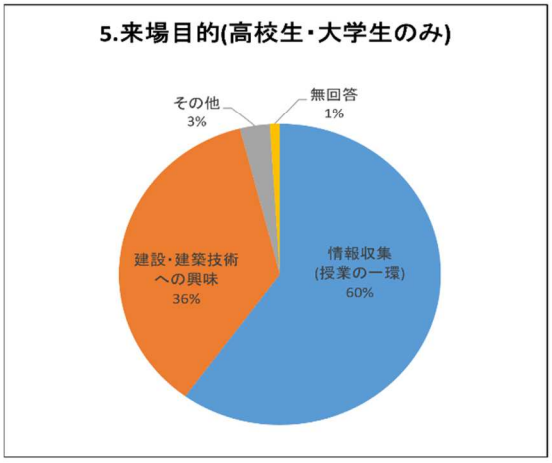
参考になったという回答は 91%となっています。

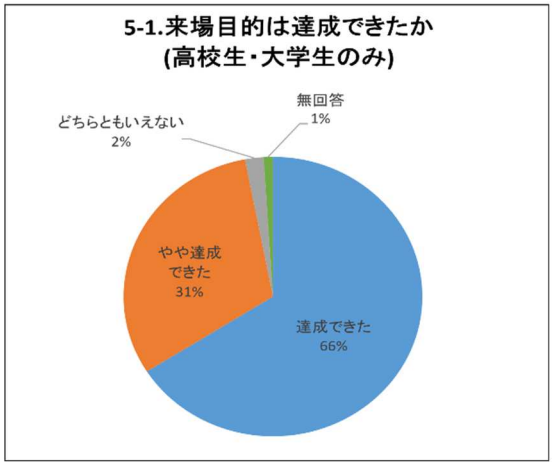


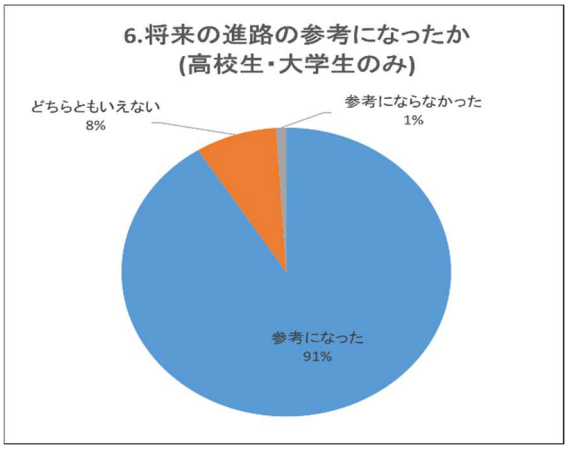






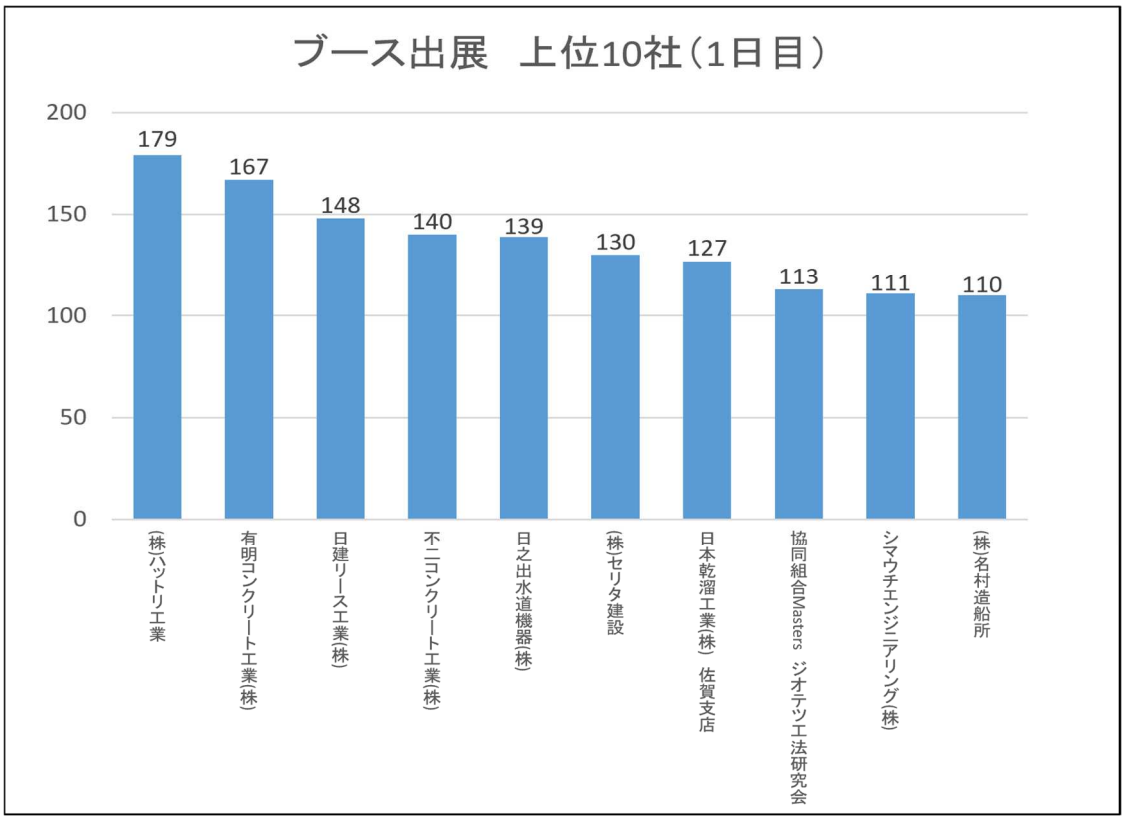






【出展ブース確認押印欄の押印数の上位 10 社（1 日目）】

アンケート用紙に設けた出展ブース確認押印欄を集計したところ、上位 10 社はグラフのとおりであり、維持管理に関する技術の（株）ハットリ工業が最も多く、次いで維持管理に関する技術の有明コンクリート工業（株）となっています。



(2) 2 日目

設問 1）職業

建設業が最も多く来場者のほぼ半数を占め、次いで学生・生徒、設計・調査・コンサルタントとなっています。

設問 2）今回のフェアで印象に残ったプログラム

多くの方は、出展ブースが印象に残ったようです。

設問 3）フェアに関しての評価

良い、やや良いという回答は 89%となっています。

【良い】

・様々な技術があることがわかった。祭りであるので年 1 回でも盛大に行うことは建設業界のアピールになる
・新しい技術が出展されていた。参考になりました
・色んな人達と仕事以外での情報交換ができる
・動線が確保され見学しやすかった
・様々な分野が自身の知識向上になりました
・建設業界の新しい技術・コスト削減、環境の事を考えての技術が全て見学が出来たのが良かった
・自分とは違った視点から建設業界を知る事が出来た
・仕事に活かせる技術が多く興味深い内容が多かったです
・意外と知ってそうで知らなかったことに気づいた
・メーカーさんの熱気が感じられた
・新しい技術や佐賀県の会社の技術を知る事が出来、大変参考になる
・施工管理アプリの進化がすごかった
・災害派遣報告が非常に良かった

【やや良い】

・建設業の魅力をもっとアピールできれば良い
・テーマ毎にブースが有り、気になるブースを比較しやすかった
・技術の発展がすごく、人がいなくても楽に進むことのすごさも伝わった
・体験ブース等があって、理解がしやすかった
・技術者の交流の場となっているため

【普通】

・いろいろな出展ブースがありよかった
・規模がもう少し大きい物を想像してた
・建設業等について学べた

設問 4）毎年の開催を希望するか【一般のみ】

希望するという回答は 89%となっています。

設問 5）来場目的【大学生・高校生のみ】

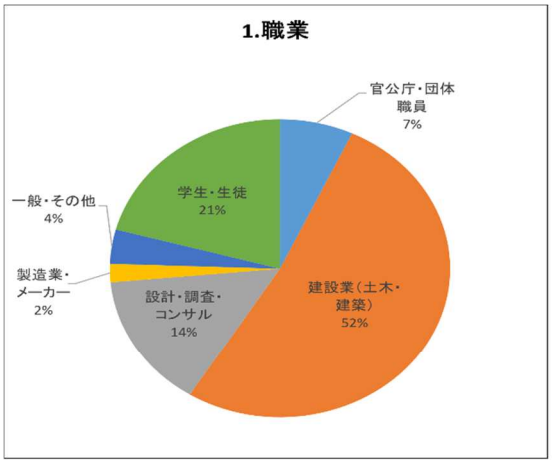
情報収集が最も多く 65%、次いで建設技術への興味が 28%となっています。

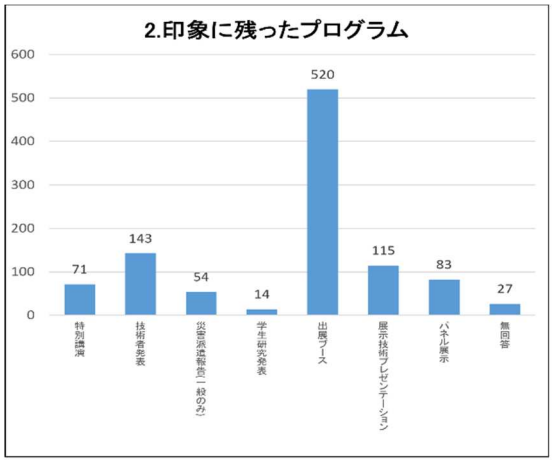
設問 5-1）来場目的は達成できたか【大学生・高校生のみ】

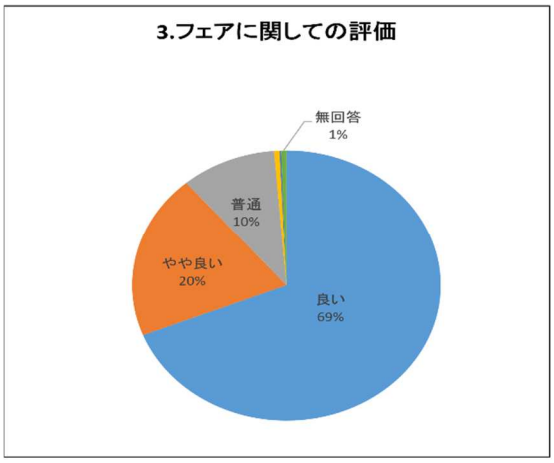
達成できたとやや達成できたを合計すると 96%となっています。

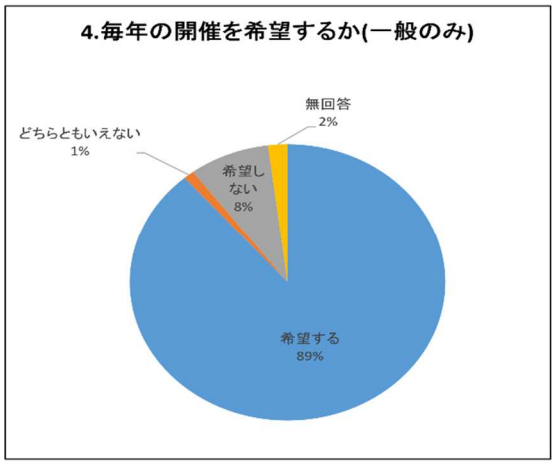
設問 6）将来の参考になったか【大学生・高校生のみ】

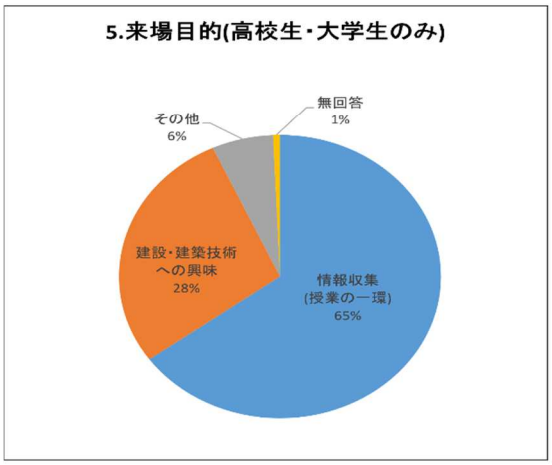
参考になったという回答は 92%となっています。

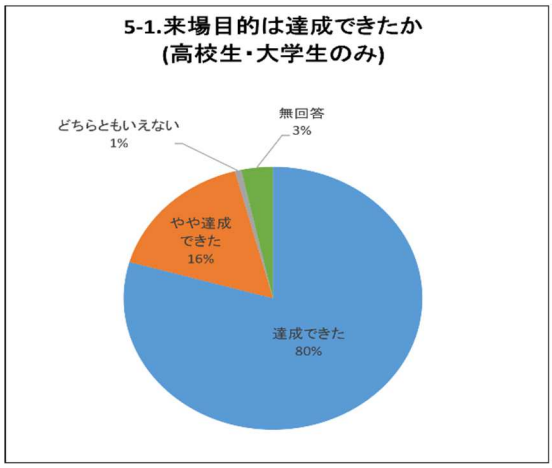


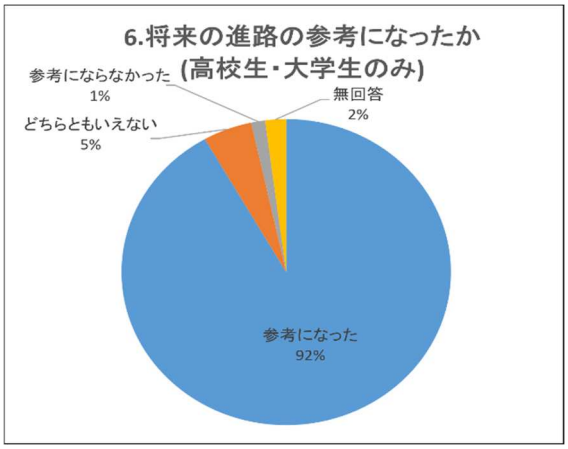






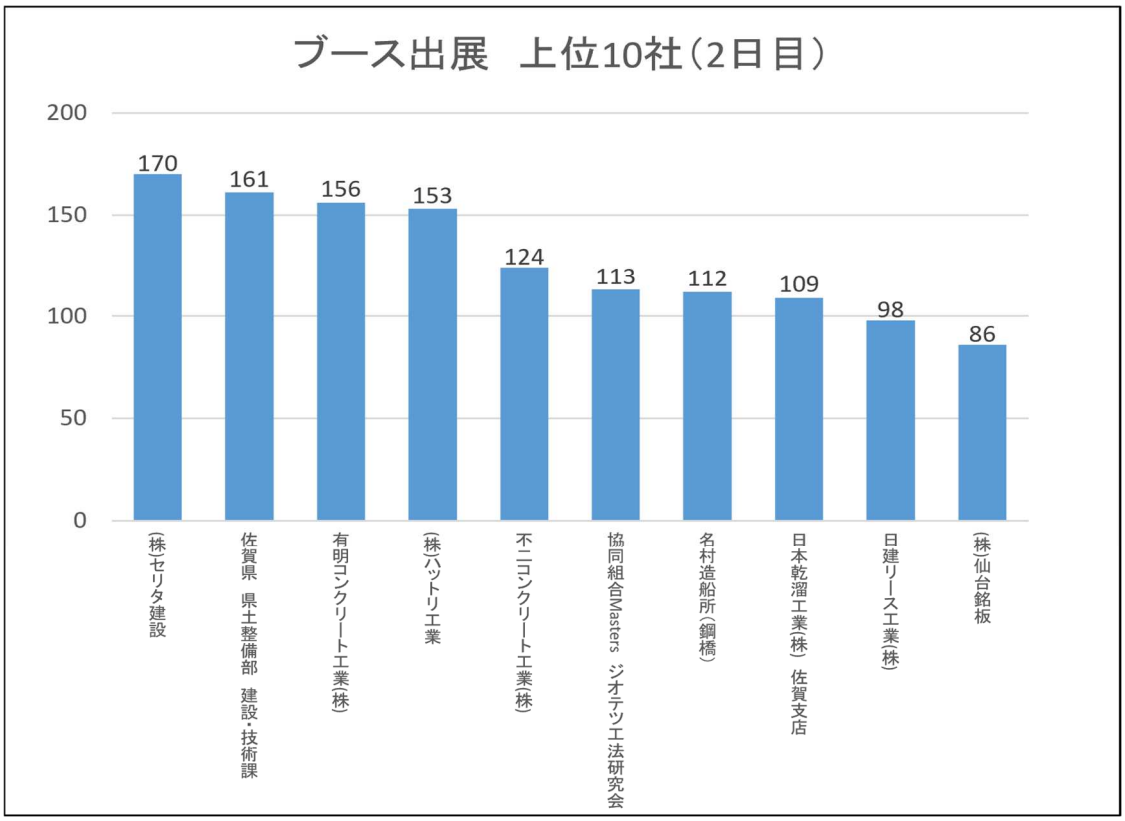






【出展ブース確認押印欄の押印数の上位 10 社（2 日目）】

アンケート用紙に設けた出展ブース確認押印欄を集計したところ、上位 10 社はグラフのとおりであり、コスト削減に関する技術の（株）セリタ建設が最も多く、次いで佐賀の技術の佐賀県　県土整備部　建設技術課となっています。



（3）来場者からの自由意見（希望する出展テーマや要望など）

・3 次元測量
・AI 技術を取り入れた企業の施策
・AI を利用したソフト開発。ロボット技術に関する土木への適用について
・CAD、測量、防水（シート等）の技術
・DX 化、図面 AI
・DX 関連、カーボンニュートラル
・ICT、BIM、SIM、CIM、AI 技術を見たい
・ICT 技術・水中施工機材の開発状況
・MORUDAM 工法
・NETIS 商品、安全、体験ブース
・安全安心な郷土を守る技術
・維持管理に関わる事をもっと知りたい
・インフラメンテナンス
・現場の事故防止対策
・海外の技術等も見られるとより楽しいと思います
・開始、終了時間を長くして欲しい
・河川、砂防に関する技術等が見たい
・機械設備に係る展示も見てみたい
・企業の強みや力を入れている所をもっと見たい
・技術等を内外に知ってもらうよい機会だと思う。情報共有、交流の場として良い
・技術プレゼンテーションを増やして欲しい
・基礎工法、コンクリート補修関連
・橋梁補修や補強の技術
・杭ナビという測量機があったが、実演はなかった。実演がもっと増えると良い
・建設、土木の魅力向上
・建設業の魅力を発信できるものが欲しい。質問をする時間があった方が良い
・建設事務の省力化
・建設ディレクターについての話が聞いてみたい
・建築系（住宅など）の設計
・建築施工を増やして欲しい
・県内東部、西部程度分割開催有れば
・現場においての簡素化できる技術を紹介して欲しい
・工事期間の出来形測量が簡単にできる技術
・工事や機械を操作するところをアニメや短編映画にしてほしい
・洪水予測、内水予測

・構造系のブースをもっと増やして欲しい
・コンクリートの補修に関する事
・自然災害（水害・ゲリラ豪雨）や猛暑、鳥対策を予防するための新技術
・佐賀ならではの軟弱地盤対策をもっと紹介して欲しい
・佐賀の技術（土木及び二次製品の新技術）
・実演が体験できる内容を充実して頂きたい
・実際に佐賀の現場で活用されている技術などを映像やパネルなどで展示して欲しい
・地元の企業の魅力発信
・上下水道に関する技術や製品をもっと見たい
・省力化、コスト削減技術
・事例発表を多く取り入れて欲しい
・新技術の活用促進のため、本取組の継続と発表
・新技術や新工法などの説明があり、受け答えできるので良かった
・浸水被害地のパネル写真を展示して欲しい
・水中コンクリート打設みたいな技術
・施工、新規工種、機械、技術方法
・測量技術、設計支援ソフト
・多種、多様な法面線化工法。小規模から凹凸のある岩盤法面対策（吹付以外）
・地域の特性に関する技術を知りたい。※有明地盤（軟弱地盤）に対する改良技術等
・地中の埋設物等が入っているか明確に分かる技術
・点群データの処理のスピード化
・ドローン、3D 等の新技術
・ドローン技術、重機系の操縦体験等を実演して欲しい
・泥土改良、地盤改良の新技術
・年に 2 回開催して欲しい
・橋の基礎地盤改良の新しい技術が見てみたい
・パネル展示等を昔の炭鉱時代の物を展示して欲しい
・不動産業界について詳しく知りたい
・プログラム発表と出展ブースが隣り合わせなので出展ブースの音で発表が聞こえにくい時もあるので、別室か遮音をしっかりして欲しい
・分野によって出店数にムラがあったので改善されると良い
・基礎的な土木用語、土木技術、工事施工例等の解説ブース、展示
・木材加工（継手）等の技術
・緑化に関する技術
・ロボット,AI 技術等省人化に関する技術
・外構工事関連の物が見たい

5.2　出展者アンケート

出展者を対象にアンケート調査を行いました。64 社の出展者のうち、30 社から回答をいただきました。

設問 1）出展の目的は

企業・団体の PR が 47%、営業活動が 37%、新製品等の PR が 13%でした。

設問 2）出展の目的は達成できたか

達成できた・やや達成できたが 87%、どちらともいえないが 13%でした。

設問 3）次回も出展したいか

出展したいは 90%で、出展しないはありませんでした。

設問 4）技術発表をしたか

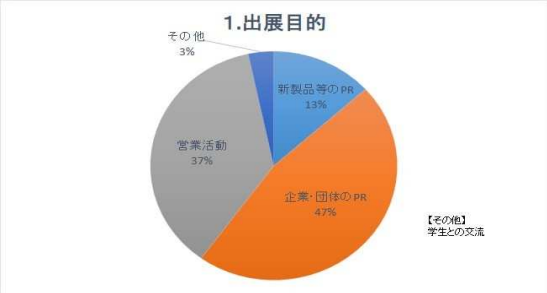
技術発表したのは 13%でした。

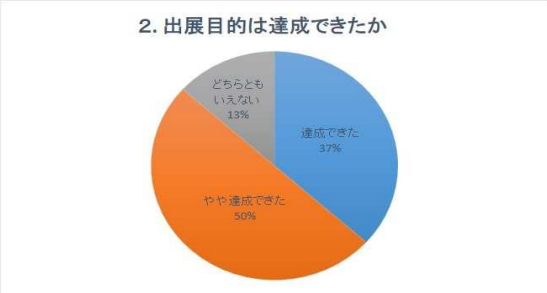
設問 5）技術発表の時間（1 社あたり 15 分間）は十分か。

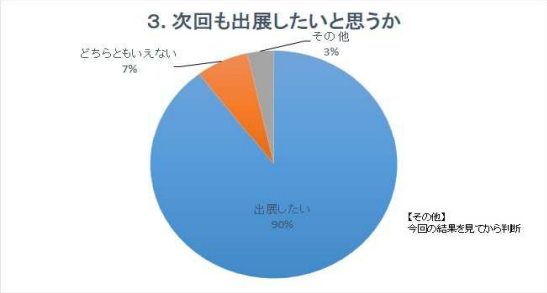
十分との回答は 55%でした。

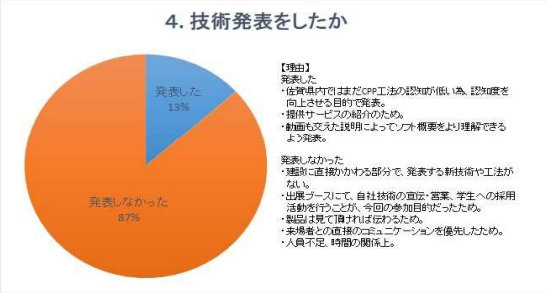
設問 6）次回は技術発表をしたいか

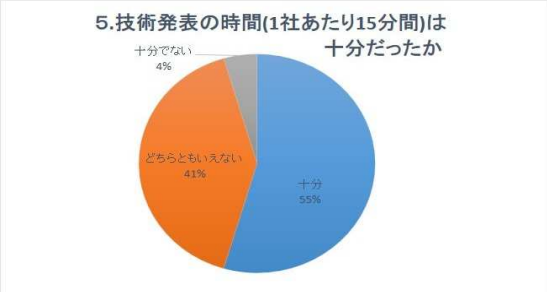
次回も技術発表をしたいと答えたのは 19%でした。

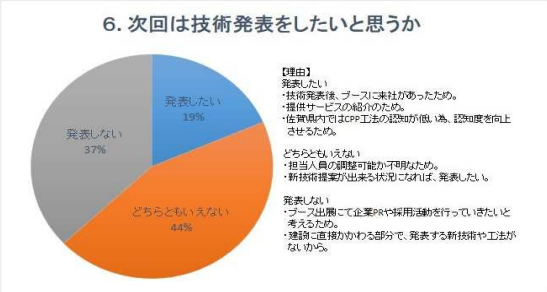












設問 7）来場者数に満足したか

満足と回答したのは 80%でした。

設問 8）フェア後に来場者に PR したか

29%の出展者がフェア後に PR したようです。

PR した内容と相手は、以下の通りです。

・後日メールにて商品のご案内をお送りし、改めて PR を行った
・既存取引先へ工法について PR した
・詳細を知りたいとご連絡先をいただきました企業様へ、連絡しあらためて商品説明の機会を設けました
・ブースで名刺交換した来場者への御礼メールの送信
・ご来場いただいた企業様へ改めてご挨拶と製品紹介をメールで送付

設問 9）フェア後に来場者からの問合せはあったか

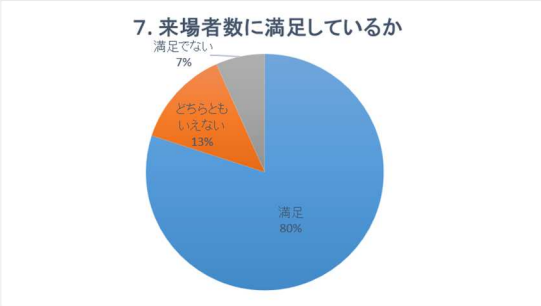
来場者から問合せがあったのは 33%でした。

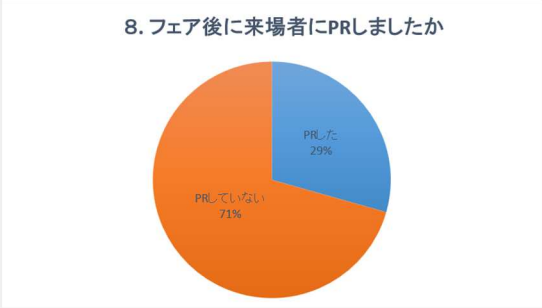
設問 10）フェアへの出展は有効だと感じたか

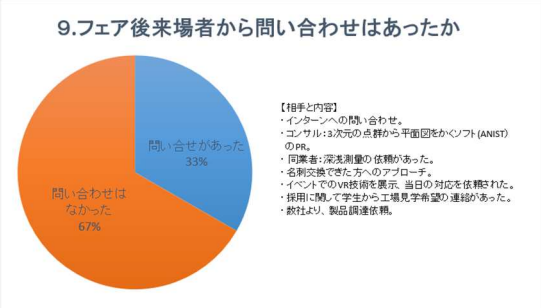
83%は出展が有効だったと感じているようです。

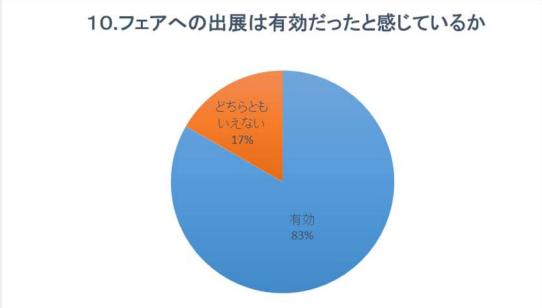
理由は、以下の通りです。

・学生の方から採用に関するお問い合わせをいただいた
・見積依頼が来たり、弊社の事を知らない人に知ってもらえた
・普段会社内では決まった方、数名にしか PR が行えないが、今回のようなフェアではお会いする事がない方でも、来場された際に PR 活動が行えるため
・ブースでの問い合わせやフェア後の問い合わせもあった
・関係者や一般の方々へ PR できる良い機会であった
・製品や企業を知って頂く場として有効
・メインが新卒学生への企業アピールであり、会社の魅力を伝える場として有効
・出展ブースでは、建設関係者から自治体職員など行政関係者まで幅広い方々と直接お話しでき、弊社技術を PR する良い機会となりました。加えて、大学生・高校生とも接点を持てたことで、採用活動として直接説明できたほか、就職活動の現状や関心事項を把握でき、有効だった
・製品の紹介、副産物の紹介、リクルートのいずれかに興味を持っていただければ有効
・多くの方と技術 PR や意見交換等ができたため
・認知度 UP や忘れられない為には、必要だと感じている
・製品の特徴を知っていただく良い機会
・新規顧客開拓にもつながる。企業価値の向上になる。情報共有の場として有効と捉えている。日間で多くの方に PR できる。（通常営業では 5 件/日程度）









設問 11）配布したポスターやチラシは活用したか

ポスターやチラシを活用したのは 46%でした。

設問 12）出展費用（ブース 80,000 円、技術発表 10,000 円）は妥当か

妥当と感じた出展者は 83%でした。

設問 13）出展ブースの配置は適当か

90%は適当だという結果になりました。

設問 14）フェアが掲げる目的は達成したと思うか

達成したとやや達成したという回答を合計すると 90%となりました。

設問 15）フェアの開催時期と開催時間は妥当か

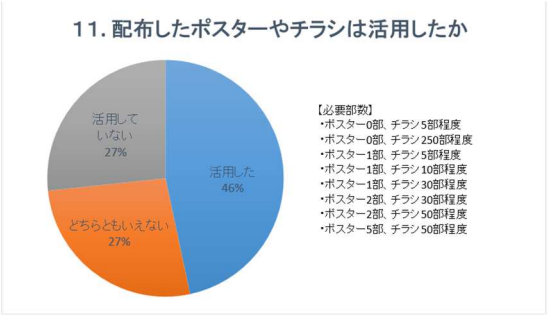
妥当という回答は 100%でした。

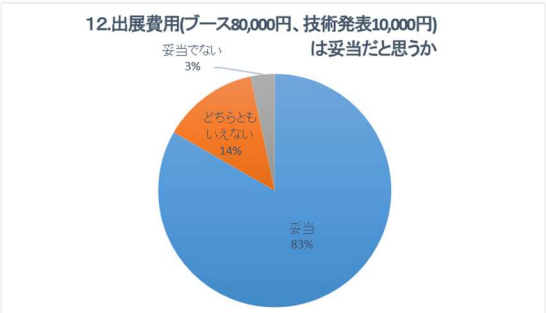
設問 16）フェアの開催場所は妥当か

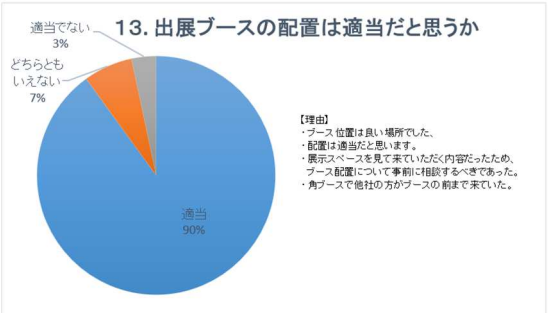
妥当と感じた出展者は 97%でした。

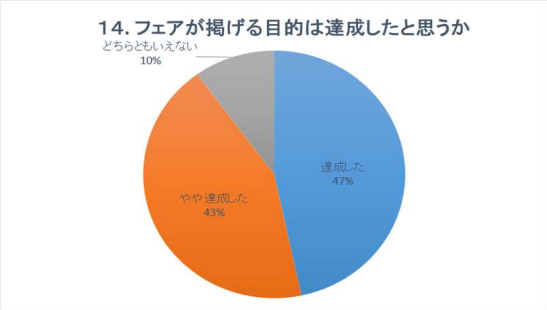
設問 17）毎年の開催を希望するか

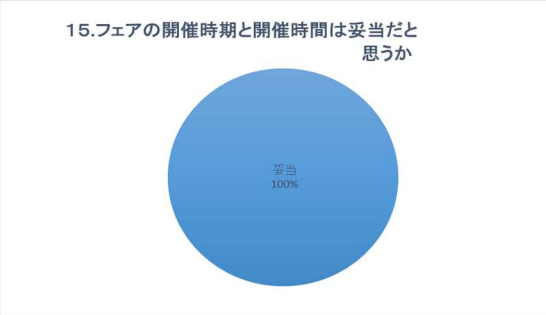
希望すると回答した方が 93%でした。

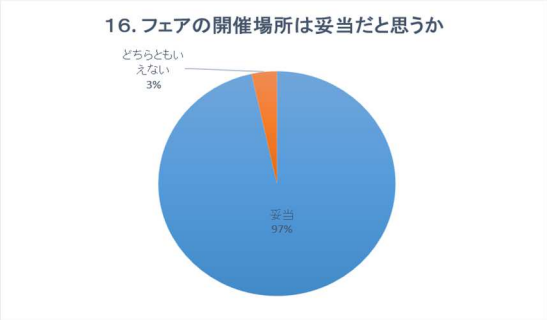


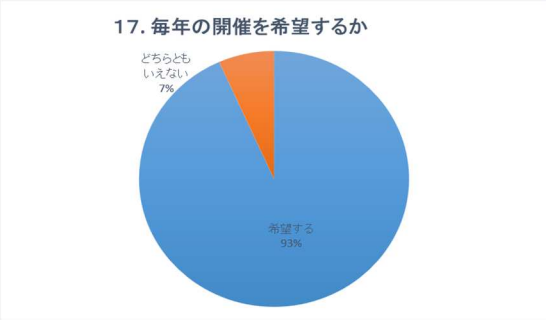












【出展者からの自由意見】

・参加企業の増加により、更なる技術交流の促進やフェア自体の希少性も上がると考えております。そのようになった場合、SAGA アリーナでの開催など一つのポイントとなりそうです。また、学生の積極的な参加も是非お願いいたします。

・効率的な営業ができ、お客様との会話の中で、今後につながる貴重な情報など頂けるので、来場者数が増えればさらに、活気づくと思います。

・技術フェア招致活動として、自社チラシを作成し配布しました。発注者（国（国交省、農政、防衛）、県、市町）の来場増加の策を講じて欲しい。私共も周知活動および来場者に有意義な情報提供をできるような、魅力的なフェアにする必要性があると感じています。

・フェア出展者は基本的に採用してもらう製品、工法の PR と、リクルート活動が目的と思います。当社は、直接建設に携わるものではないのですが、出展の機会をいただいていることに感謝します。あくまで建設技術フェアですので、リクルートを前面に打ち出すことは趣旨に沿わない部分もあるかもしれませんが、公式にリクルートを開催の主旨に加えられても良いのではないかと思いました。

・弊社の都合ですが、営業が手薄な佐賀県において製品 PR 等ができる貴重な機会なので毎年助かっております。正直なところ効果・反響としては小さいのですが、ひとつのきっかけとしては成果があり、実績に繋げられたらと思います。

・ネームバリューのある県内の主要建設土木会社の出展があればもっと盛り上がるのではないかと思います。また高校生の見学は工業系メインなのでしょうが、商業系、普通系の学生も、こういうフェアに参加すれば、建設業界に興味を持ってくれるかもしれません。

・佐賀へは初出展させていただきました。皆さま、良い方で大変有意義な時間となりました。また機会があればよろしくお願いいたします。

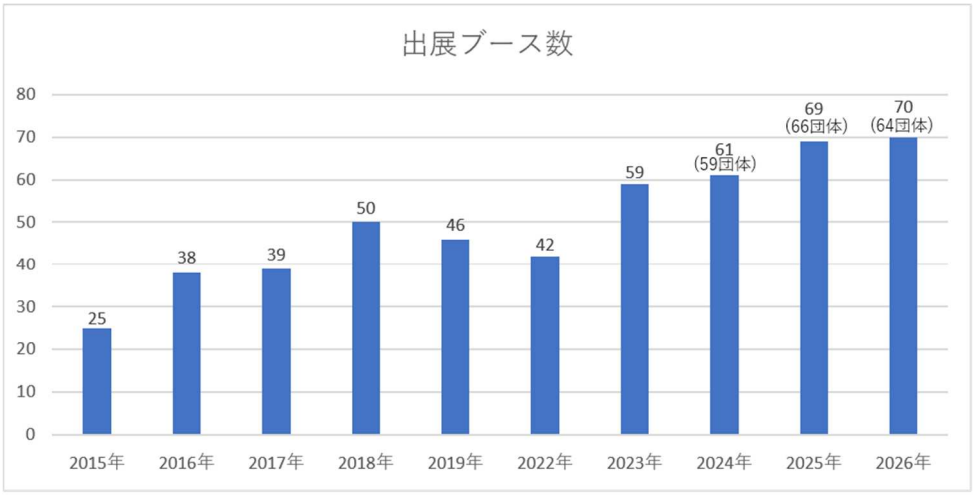
6.　過去 10 回の出展団体数と来場者数の推移

フェアは 2015 年からスタートし、新型コロナウイルスの感染拡大により中止となった 2020 年、2021 年を除いて、これまでに 10 回開催しました。出展ブース数と来場者数の推移は以下のとおりです。2022 年は新型コロナウイルス対策の観点から、出展数や来場者数を制限したため、少なくなっています。

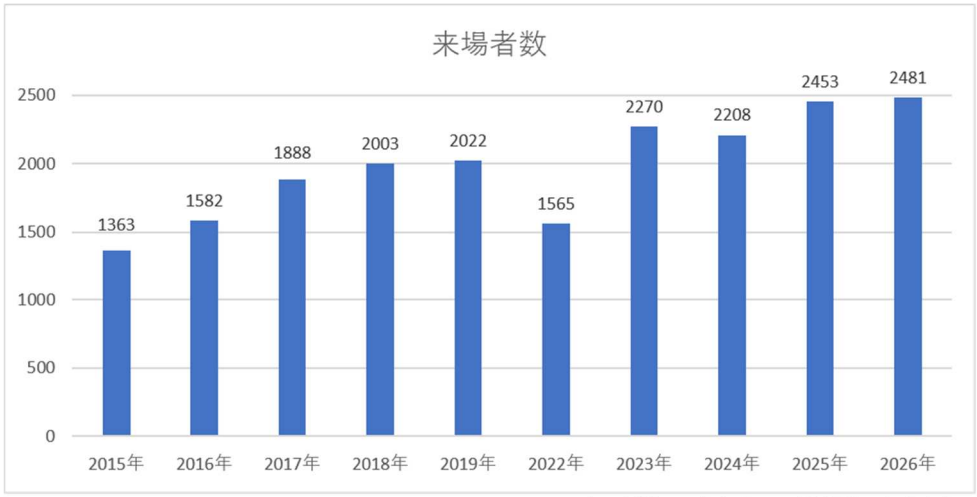
出展ブース数は年々増加傾向にあり、会場を SAGA プラザに変更した 2023 年にはブース数が 60 近くに増え、その後も増え続けています。1 団体で複数ブースを出展いただくケースもあり、今年は過去最高の 70 ブースとなりました。

来場者数も概ね増加しており、今年は過去最高の 2 日間でのべ 2,481 名の方にご来場いただきました。

出展ブース数や来場者数は有難いことに年々増えており、フェアが多くの方に認知されつつあると感じています。



※2020.2021年は新型コロナウイルス感染予防のため中止



※2020.2021年は新型コロナウイルス感染予防のため中止

7. まとめ

当機構は、地方公共団体の建設行政との連携・協働を図り、社会資本の整備及び公共施設の維持管理に関する各種の技術支援事業を通じて、県民の安全で安心な生活の実現に寄与することを目的としています。

フェアは、公益目的事業の「技術力向上のための技術情報発信事業」における「建設技術情報啓発事業」に位置付けており、日々進化する建設技術の情報収集発信・利活用が必要不可欠であるという観点から建設技術の理解を深めるための取り組みの一環として実施しました。また、生徒・学生や若手技術者等のキャリアデザイン教育の一助になることも期待しています。

フェアの目的は、以下の 3 つを柱として、これらを通じて建設産業の発展に寄与できるものと考えています。

〇建設分野（土木・建築）の技術・工法・製品などについて産学官における技術情報の交流の場を提供すること

〇建設分野の技術開発や新技術導入の促進を図ること

〇多くの方々に建設業界の魅力や社会資本整備の必要性について理解を深めてもらうこと

コロナ禍では開催を中止したり、来場制限や感染対策を徹底したりするなど、来場者や出展者の皆様にご不便をおかけしましたが、技術者同士が対面で交流できる場を提供することが有意義だと考え、現在は来場人数等の制限なく開催しています。来場者や出展者のアンケート結果からも対面で交流することの重要さを主催者としても実感しているところです。

会場については、出展ブース数を増やしてフェアの規模の拡大を図り、より多くの方にご来場いただきたいとの想いから、数年前から SAGA プラザ（総合体育館）に会場を変更し、大変ご好評をいただいています。

出展ブース数は、今回は 64 の企業・団体から出展いただきました。来場者数も有難いことに過去最多の 2 日間で延べ 2,481 名の方々に来場いただきました。過去 10 回の出展ブース数や来場者数を見ても、年々増加傾向にあり、フェアの認知度が高まってきているのを感じています。

来場者ならびに出展者の皆様に対して実施しましたアンケート結果を見ますと、多くの方々にご満足いただいた一方、当日対応や出展内容などへのご意見・ご要望が多数あり、今後の開催にあたっての課題も明らかになりました。継続開催を希望する声も多かったことから、今後はそれらの課題を改善しながら、充実したフェアとなるよう努めてまいります。

また、継続開催のためには、国や自治体、県内の建設業関連の団体・協会のご協力やご来場は必要不可欠です。佐賀大学の学生や県内高校の生徒が積極的に参加できるように連携していくことも重要と考えており、可能であれば九州の大学との連携も模索できればと考えています。

最後に、フェアを開催するにあたり多大なご協力をいただきましたご講演者の皆様、佐賀県をはじめとした共催者および後援の方々、ならびに関係各位に厚く御礼を申し上げますとともに、今後ともご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。